

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570101636
法人名	医療法人 岡田整形外科
事業所名	グループホーム一喜一喜
所在地	宮崎市大字浮田3318番地 (電話) 30-4821
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 9月 4日

【情報提供票より】(21年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 6日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	円	その他の経費(月額)	円
敷金	☑有(50,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☑無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月15日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 87歳	最低 79歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡田整形外科、徳田内科、福沢歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市西部に位置して、母体法人の整形外科、デイケアの近くにある。隣接してもう一つのグループホームがあり、利用者、職員が行事等で交流がある。職員研修では、年間の研修計画が作成され、法人内、外の研修に多くの職員が参加して、サービスの質の向上に努めている。また、グループホーム全国大会で研究発表を行いスキルアップにも努めている。そして、認知症サポーター養成講座を開催して、地域の方々に認知症の方の理解者を増やす役割も行っているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、家族からの意見が出しやすいように、また、引き出しやすい工夫ができるように改善課題があった。部門別会議で検討して、家族と職員との交流会を行い、意見等が出た。それから、家族の面会の時意見等引き出せるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を全職員で理解して個別に職員が評価して、全職員で話し合い自己評価を作り上げた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月ごとに開催しメンバーも地域の民生委員、自治会代表者、地元消防団など多彩である。会議で出た意見等は部門別会議で検討してサービスの質の向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの便りを年4回発行して利用者の状況を報告している。金銭出納簿は毎月確認が行われている。家族と職員との交流会を行った後から、家族の面会の時に意見等引き出しやすくなった。出た意見等は、部門別会議で検討し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りや行事に参加したり、認知症サポーター養成講座を行っている。また、保育園の慰問や中学校のボランティアを受け入れて交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解して、職員全員で作上げた事業所独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2～3回のミーティングで年度目標と理念と重ね合わせて目標を設定して、業務に反映できているか話し合いが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや行事に参加したり、認知症サポーター養成講座を行っている。また、保育園の慰問や中学校のボランティアを受け入れて交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を全職員で理解して自己評価に取り組んだ。前回の取組んでいきたい内容も部門別会議で検討して改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催してメンバーも地域の民生委員、自治会代表者や地元消防団など多彩である。また、出された意見等は部門別会議で検討してサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者にホームの運営等について電話で意見等伺い連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回のホームの便りや面会時に利用者の状況を報告している。金銭出納簿についても毎月確認が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員との交流会を行った後から、家族の面会の時に意見等引き出しやすくなった。出された意見等は、部門別会議で検討して、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、隣のグループホームと異動がある。しかし、日頃から交流があり利用者、職員が顔なじみで影響はないように異動に配慮が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画表があり計画的に研修が行われている。研修報告は、ミーティングで行われている。また、新人職員には、3か月間にわたり介護職員指導確認表や教育訓練マップでトレーニングしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会の研修に参加して交流を行っている。また、全国大会に参加して研究発表を行いサービスの質を向上させる取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学に来てもらいホームの雰囲気など感じてもらう納得してサービスにつないでいる。また、体験入居もできる体制にある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に生活している」理念のもと、調理、後片付けなど利用者に教えられたりして、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望、意見など聞いたときに気付きメモ(『なぜメモ』)に記入して、介護計画書などに活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見等は気付きメモなどを活用している。また、全職員で意見を出して介護計画書を作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い状態が変化したときには期間の途中でも見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診等は家族が行うことになっているが、家族が都合が悪いときは、職員が受診介助して、結果もその日に報告している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医になっている。その他の病院受診については、母体法人の医師の指示のもと、家族にも意向確認を行い必要に応じた受診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い本人、家族と話し合っ方針を確認してその都度同意を得て全職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の時の声かけなどプライバシーを損わない対応が行われている。また、ヒアリングでも介護の時や声かけにプライバシーに注意して行っていると伺った。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や状況に応じた日課が過ごせるように食事時間や毎日の入浴など希望にそって柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理や配膳、下膳など自宅にいるときのように自然体で行われている。また、全職員が利用者とは話しながら一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、本人の状態や希望に合わせて毎日でも入浴できるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式から一人ひとりの趣味や楽しみごとを活かせるように、生け花、縫物など個別に支援している。また、集団でレクリエーションや散歩などの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や状態に応じて買い物や散歩、ドライブなど戸外に出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊多動の利用者がいるが、職員が頻繁に所在の確認を行い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災を想定した訓練を地元消防団が参加して行っている。また、非常食等の備蓄を備えている。	○	年2回の総合訓練に地域の住民の参加や毎月のミニ訓練を取り入れて、台風に備えた訓練も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分のチェックも行われ記録し、職員が情報を共有している。また、医師に報告して医療につなげたり、管理栄養士に指導を受け利用者に支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングが明るく、畳が敷かれ、ソファが置かれている。また、ラジオから懐かしい歌が流れて落ち着いてくつろげるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には、家族の写真やタンス、テレビなど持ち込まれて利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。		